

国語

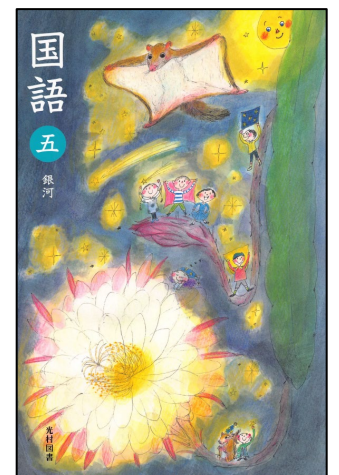
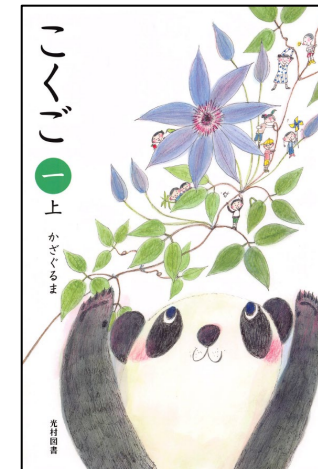
グループ



●「国語」は授業時数が多い

各教科等の授業時数 学校教育法施行規則別表第1(第51条関係)								
区分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	合計
各教科の 授業時数	国語	306	315	245	245	175	175	1461
	社会			70	90	100	105	365
	算数	136	175	175	175	175	175	1011
	理科			90	105	105	105	405
	生活	102	105					207
	音楽	68	70	60	60	50	50	358
	図画工作	68	70	60	60	50	50	358
	家庭					60	55	115
	体育	102	105	105	105	90	90	597
道徳の授業時数		34	35	35	35	35	35	209
外国語活動の授業 時数						35	35	70
総合的な学習の時 間の授業時数				70	70	70	70	280
特別活動の授業時 数		34	35	35	35	35	35	209
総授業時数		850	910	945	980	980	980	5645

算数の約1.5倍
≡文科省の優先科目



●「国語」は教科書が不親切

教材文のうしろに簡単な
「てびき」



ごんぎつね

新美 南吉 作
かすや 昌宏 絵

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの中山という所に、小さなお城があって、中山様というおとの様がおられたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、ひとりぼっちのきつねで、しだのいっばいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、あたりの村へ出てきて、いたずらばかりしました。畑へ入っていてもほり散らしたり、菜種がらのほしてあるのへ火をつけたら、百姓家のうら手につるとんからしをむしり取っていった

り、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。

雨があがると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。空はからりと晴れていて、もずの音がキンキンひびいていました。

ごんは、村の小川つつみまで出てきました。あたりのすずきのほには、まだ雨のしずくが光っていました。川は、いつもは水が少ないのですが、三日もの雨で、水がどとましていました。ただのときは水につかることのない、川べりのすずきやはぎのかぶが、黄色くにごった水に横たおしに



見返しをもと

気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう

- ・気持ちを表す言葉や、情景のえがかれ方に気をつけよう。
- ・物語について話し合い、考えを深めよう。

とらえよう

●「ごん」は、どんなきつねですか。それは、どこから分かりますか。

●「ごん」と「兵十」の気持ちをたしかめよう。

●「ごん」が「兵十」の態度で、「ごん」が「兵十」にしたこと、そのときの「ごん」の気持ち。

●「ごん」の態度で、「兵十」が知ったこと、そのときの「兵十」の気持ち。

ふかめよう

●情景や、場面の様子を目にうかぶような表現を見つけよう。そして、その表現からどんなことが分かるかを、友達と話し合おう。

まとめよう

●くわしく読んで分かったことや感じたことをもとに、物語や人物についての考えをまとめよう。

ひろげよう

●考えたことを発表しよう。そして、さらに考えを深めたいことについて、グループでテーマを決めて、話し合おう。



ふりかえろう

- 考える
 - 読む
 - つまむ
- どのような言葉から、人物の気持ちをたしかめましたか。
- 話し合う前と後とで、物語や人物に対する考えはどう変わりましたか。
- 人物の気持ちの変化について考えるためには、何に注目するとよいですか。

1 ノートの例

場面	「ごん」が「兵十」にしたこと	そのときの「ごん」の気持ち
1 村の小川	兵十のどった魚やうなぎにいたずらをした。	ちよっと、いたずらがしたくなった。

2 情景や、場面の様子がよく分かる表現

- ・空はからりと晴れていて、もずの音がキンキンひびいていました。(13ページ6行目)
- ・青いけむりが、またつつ口から軋く出ていました。(29ページ9行目)

3 テーマの例

- ・「ごん」と「兵十」はどんな人物か。
- ・「ごん」のつぐないの気持ちは、「兵十」といいたのだから。
- ・物語の結末についてどう思うか。

4 話し合うときに気をつけること

- ・文意の、どの表現からそう考えたのかを言う。
 - ・自分の考えを述べながら、友達の発言を聞く。
- 「ごん」の気持ちについて
の考えは、村田さんと同じです。ただ、その思った理由が少し違います。



● 変化する

光村図書4年下「ごんぎつね」より

●「国語」を選択した理由

- ・どうしてもものが国語の教材として可能性があるのか考えたい。
- ・国語の教え方についてもっと考えたい。
- ・言葉の仕組みについて考えたい。
- ・文学について、作家について調べたい。
- ・外国人(児童生徒)への日本語教育を考えたい。



●国語グループの学生

昨年度卒業生

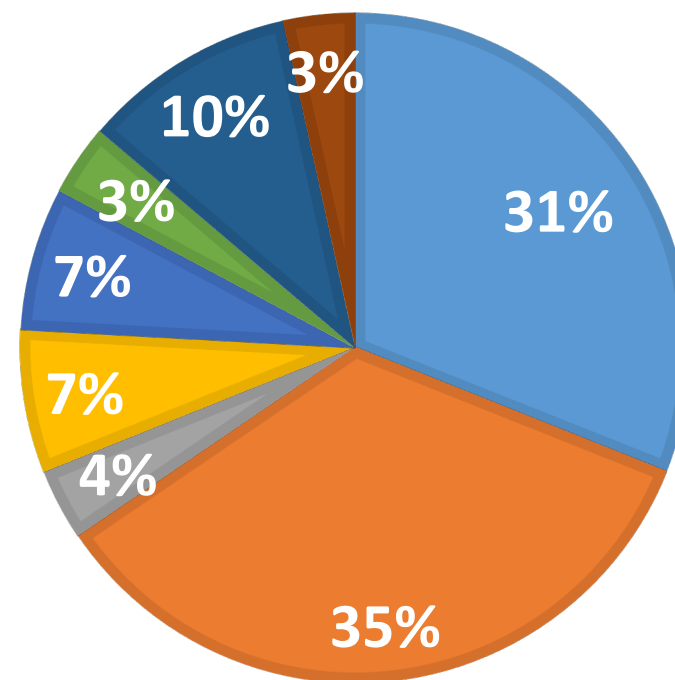
	国語グループ	卒業研究ゼミ
U21	30名	16名
U22	36名	24名
U23	30名	19名
U24	37名	

幼稚園	一種		2
中学校	一種	国語	26
		音楽	2
		保体	1
		技術	1
	二種	国語	4
		技術	1
		家庭	1
高校	一種	国語	27
		音楽	2
		保体	1

●国語グループの進路先(U21)

進路	人数
公立小学校	9
公立中学校	10
公立高等学校	1
公立小学校（臨採）	2
公立中学校（臨採）	2
公務員	1
進学	3
その他	1
計	29

- 公立小学校
- 公立高等学校
- 公立中学校（臨採）
- 進学
- 公立中学校
- 公立小学校（臨採）
- 公務員
- その他



●国語の専門科目

国語学	★ 国語学Ⅰ	菅井三実
	★ 国語学Ⅱ（音声言語及び文章表現を含む。）	菅井三実，西本智子
	国語学演習Ⅰ	菅井三実
	国語学演習Ⅱ	西本智子
国文学	★ 国文学Ⅰ	白井伊都子
	★ 国文学Ⅱ（国文学史を含む。）	西田太郎
	古典文学演習	白井伊都子
	近代文学演習	未定
	児童文学論	遠藤純
	★ 児童文学演習	遠藤純

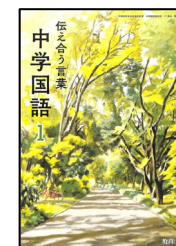
国語グループの必修は、★がついた授業科目です。

漢文学	★ 漢文学	橘英範
	漢文学演習	橘英範
書写	★ 書写・書道	折川司，徳永加代
国語科教育	★ 国語科教育法Ⅰ	西田太郎
	★ 国語科教育法Ⅱ	池田匡史
	国語科教育法Ⅲ	羽田潤
	国語科教育法Ⅳ	羽田潤
複合科目	★ 国語科授業研究	白井伊都子

授業担当は R8

国語学Ⅰ・Ⅱ
国語学演習Ⅰ・Ⅱ⇒
国文学Ⅰ・Ⅱ

日本語学Ⅰ・Ⅱ
日本語学演習Ⅰ・Ⅱ
日本文学Ⅰ・Ⅱ



●時間割の例(R7の場合)

	月	火	水	木	金
1		同和教育と人権教育	小学校プログラミング教育教材論 情報モラル・セキュリティ教育論	初等体育科教育法	
2		初等英語科教育法	初等音楽科教育法	初等図画工作科教育法	
3	英語コミュニケーションⅤ	初等算数科教育法			インクルーシブ教育実践論
4		児童文学論	小学校授業づくり入門		総合的な学習の時間の理論と実践 STEAM教育概論
5					学習科学と授業のリデザイン

集中講義・通年 フレンドシップ実習(実地教育Ⅱ)

	月	火	水	木	金
1		道徳教育論	初等生活科教育法	初等家庭科教育法	
2	初等国語科教育法		初等理科教育法	初等音楽科教育法	国語学Ⅰ
3	初等算数科教育法		英語コミュニケーションⅥ		
4		国文学Ⅰ	小学校授業づくり入門	初等社会科教育法	

書写書道で制作された作品



集中講義
漢文学
書写・書道

国語2種免許の必修科目

集中講義
STEAM教育演習

●卒業研究(令和6年度)

no	論文題目
1	スポーツにおける応援の言語表現に関する調査研究
2	現代日本語におけるフィラー表現の実態と機能に関する調査研究
3	絵本『もうぬげない』についての研究
4	「源氏物語」の執筆に至る紫式部の性格と環境
5	現代日本語における流行語の消長に関する調査研究
6	養父市八鹿町の中学生における但馬方言の使用実態に関する調査研究
7	地名の熟語表記におけるクリッピング法に関する記述的研究
8	マンガ『ONE PIECE』を用いた国語科授業の研究
9	小学校における「古文に親しむ」古典教育の研究
10	アダプテーション作品の魅力とは何かドラマ『SHERLOCK』と原作『シャーロック・ホームズ』の比較・分析を通してー
11	『よだかの星』についての研究～色彩語と賢治の宗教観から読み解くよだかの死～
12	中学校教科書にみられる古典教材観
13	具現化によって文学テキストにおける文脈の合意形成を図る学習デザイン
14	語りの時間に着目した文学的文章の教材研究 -令和6年度版教科書における新教材の研究を通して-
15	教科書における徒然草―兼好法師像に着目して―
16	「時代性から見た光源氏の恋愛に関する一考察」

●国語グループの教員



すがいかずみ

教授 **菅井三実**

【研究分野】
日本語学、言語教育

【担当科目】
国語学Ⅰ、国語学演習Ⅰ

【メッセージ】
日本語学を担当しています。日本語学は、日本語そのものを研究対象とする分野です。書き言葉・話し言葉にかかわらず、これまで、新語造語・日英の慣用句・敬語・擬音語・学生の出身地の方言などが卒論で取り上げられてきました。身の廻りの日本語すべてが研究対象になり得るので、データは無限にあるわけですが、自分でテーマを決めデータ（用例）を集めるという作業が求められます。



しらい いつこ

教授 **白井伊津子**

【研究分野】
日本古典文学

【担当科目】
国文学Ⅰ、古典文学演習ほか

【メッセージ】
日本古典文学のなかでも、とくに枕詞、序詞、懸詞などの修辞表現について研究しています。また、中国文学が日本古代文学に与えた影響についても関心があります。昨今、古典文学を学ぶことに疑問の目が向けられていますが、日本の古典文学を分析的に考えることは、人間の知を掘り起こす作業ともいえるでしょう。作品を読み解きながら、古典の意義をあらためて考えましょう。



はだじゅん

教授 **羽田 潤**

【研究分野】
国語科教育、メディア教育
【担当科目】
国語科教育法Ⅲ、国語科教育法Ⅳ

【メッセージ】
多様なメディアを用いて、教材開発を行なっています。写真、絵本、マンガ、児童文学、小説、雑誌、広告、CM、ドラマ、ニュース番組、ドキュメンタリー、アニメーション、映画等、児童・生徒が日常的に楽しんでいるものを対象に、その特性をあきらかにし、教材化につなげるための作業を行なっています。

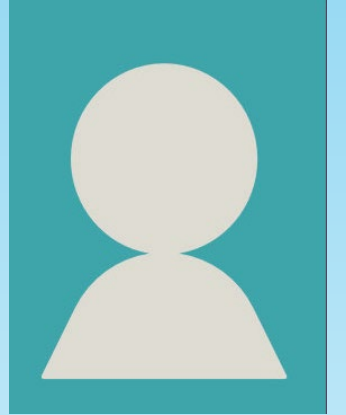


たけぐちともゆき

准教授 **竹口智之**

【研究分野】
日本語教育、動機づけ
【担当科目】
外国人児童生徒のための日本語教育

【メッセージ】
みなさんが学んできた「国語」とは全く異なった方法で、日本語を学ぼうとしている子どもたちがいます。そしてそれは何も外国だけにいるわけではありません。子供たちの日本語学習を少しでも楽しいものにできるよう、一緒に考えてみませんか？



【予定】
近代文学